

午後の「預かり保育」の時間

先週の2月8日(木)の夕方、預かり保育の子どもたちも、そろそろ帰る時刻なので、何をしているかなと思い、様子を見に行ってみました。すると女の子が二人残っていて、二人の先生と楽しそうに遊んでいました。

一人の女の子は、なんとコンタクトレンズを作っているではありませんか。子どもたちは様々な遊びを創り出しますが、コンタクトレンズを作って遊んでいるのは、初めて見ました。コンタクトレンズのことをよく知っているのでしょうか、本物そっくりです。

5時頃、その子のお父さんが迎えに来たときに、そのコンタクトレンズのことを話すと、「ああ、ぼくが毎朝、コンタクトレンズをつけるので、毎日見ていたんですね。きっと。」と嬉しそうに話してくださいました。

「ああ、この子はお父さんが大好きなんだな・・・。」と、心が温かくなるような気がしました。

子どもはこういうふうに、信頼する大人をよく見ていて、自分で学んでいくのだなと感心しました。子どもはすごいなと思いました。

そして、もう一人の女の子は、アンパンマンやバイキンマンが出てくる紙芝居を作っていました。先生と話しているうちに、どんどん絵を描いていって、いつの間にか7枚の紙芝居になったのだそうです。「アンパンマンとバイキンマンが遊んでいると、そこにお花の芽が出てきました。しばらくすると、また別の色のお花が芽を出しました。そうしてまたしばらくすると、また別の色のお花の芽が・・・」というようなお話です。先生と一緒に楽しそうにお話を聞かせてくれました。

子どもがうまく話せないところは、預かり保育の先生が話してくれます。子どもは信頼できる先生のもとで、心穏やかに過ごしているのがよくわかります。

預かり保育の先生は、よく「家庭で過ごしているように、できるだけ子どもたち一人一人の思いや願いを、かなえてあげられるようにしたいなと思っています。」と言っています。

このように預かり保育の先生は、朝から行われている教育時間の活動を考慮し、午後はそれとは違う時間を過ごせるよういつも考えてくれています。

そういう先生方の細やかな配慮や心遣いは、なかなか外からは「見えない」のかもしれませんが、そのおかげで子どもたちは明日への意欲を高め、次の日もまた元気に幼稚園に来ることができるのだと思います。

